

2015年7月26日礼拝メッセージ

主題：「今が恵みの時である」

聖書箇所：黙示録11章、ゼカリヤ4：7

アウトライン

序論：

- I. 患難時代と反キリスト
- II. 主の測りにかけられる
- III. 主イエスの死が意味するもの

結論：

日本の政治が揺れ動いています。集団的自衛権の問題、戦後70年の国をどのように導くか、イスラム国の問題とテロリズム、ギリシャ負債問題とEUの今後、などなどです。

毎週土曜日、中高生の勉強会を開いていますが、私に教えられることはわずかです。しかし、みんなから教えられます。特に社会科、理科関係、私が知らないことがいっぱい出てくるのです。社会人のみなさん、よければ中高生勉強会に教えに来て下さい。あなたにとって勉強になりますから。

昨日などは中国国内やEU内の経済格差について学びました。ブルガリアやルーマニアの国民所得は何とドイツやフィンランドの4分1しかないのです。これが一つの国家と考えると大問題です。日本の場合、東京と沖縄で2倍の開きです。それでも大変な事態なのにEUは大変です。もしもこの経済格差を減らし、富の分配を一時的にでもよくできる人物が現れるとしたら、世界中の人心はその人になびいてしまうでしょう。

今の自民党政権も少し前の民主党政権ももとはといえば、それぞれの経済政策に期待して国民が投票した結果なのですから、私たちの責任なのです。ではどうすればよいか？わかりません。ただ祈る必要はあるでしょう。今の為政者が良い政治が出来るように、またわたしたちに良い判断力が与えられるように、です。ただこのような経済変調政治の流れを見ると世の終わりの反キリストは経済安定の旗印のもとに台頭してくる、という預言も現実味を帯びてきます。

さて今日の聖書箇所には、獣が出てきます。これが反キリストです。彼が目に見える形で大権力をふるう時が3年半、それと並行して、または多少ずれて二人の証人、旧約でいうところの預言者が活動します。私は中学生時代からこの手の話が大好きで、ああでもない、こうでもないといろいろな本を読み漁りました。大半は忘れてしまいましたが、この黙示録に似たような話がいっぱいあったような印象は残っています。ここを読むだけではどちらが正義の味方かなんだかわからなくなるかもしれません。しかし、この二人の預言者は終わりの患難時代において、証しをするのです。どんな証しでしょうか？バプテスマのヨ

ハネの証しかもかもしれません。「くいあらためなさい。神の国は近づいた。」

では、この二人の証しを誰が信じるのでしょうか。多くはないと思います。つまるところ、人間は「悔い改めなさい」と言われて悔い改められるほど出来はよくないのです。人間は自分の力を信じたい。自分には力がない、と思いたくない。そして彼らのことばも悪意と共に無視してしまうのです。ですから獣、すなわち反キリストによって彼らが処刑されると大喜びするのです。ひどい話です。

ただ私自身もこの時代の人と同じです。私の肉は、しかられても反省せず、自分の耳を素通りさせてしまう、その場だけしのげればよいというものなのです。ですから十字架を知り、悔い改める気になったというのはまさに奇跡なのでした。

さて、今日この箇所を読んでいて、自分に一体何が関係するのだろうか、と思いました。主は何故この黙示録 11 章を私たちにお与えになったのでしょうか。すると 1 節に目が留まりました。「そこで礼拝している人を測れ」この言葉です。文字通りには神のさばきです。測られる＝さばかれるといってもいいでしょう。普通はおまわりさんにとめられるとやばいと思います。私は一年に大体一度はそういう体験をしています。ましてや人間が主にさばかれるということになると、もっとやばいというものです。

しかし、今日この言葉を読んだ時に不思議な平安があたえられました。主は私の何を知っているのか、と思い出したのです。主は私の心をご存じだ、隠れてしたこともご存じだ。にも関わらず十字架でご自分を犠牲にしてくれたのです。赦して下さったのです。だとすれば、何を恐れることがあろうか、という平安でした。

私の娘の保護者面談がありました。娘が言います。「みんな保護者会を怖がってるけど、私はちっとも怖くないよ。全部母さんたちに話してあるもんで。」家内は「この成績で？」とあきれていましたが、わたしは、納得です。私は主の前にはもっとひどい内申書しかない者だからです。

こんな私たちを主は測られ、罰するのではなく、良き報いを与えて下さるといなのです。なんとという思いもかけぬ恵みでしょうか。主に測ってもらえることを心待ちにしてよいとは！何という特権でしょうか。

ゼカリヤ書を見るとこの二人の証人が何を語りたかったのかが、わかります。7 節、「恵みあれ、恵みあれ」これこそが彼らの真に語りたかったことなのではないでしょうか。しかし、彼らは終わりの預言者として、悔い改めを説かなければなりません。彼らのこの言葉は現在のわれわれの上になお響きます。

異邦人であり、悔い改める力もなき我々に「恵みあれ。」と宣言し、聖霊によって悔い改めへと導かれた。ここにこそ主の愛のしるしがはっきりと表れているのです。

そして黙示録の時代に契約の箱に近づく人に雷鳴、地震、雹が降り、恐れを与えたのとは

異なり、十字架に主が死なれた時に至聖所の幕が裂け、全ての人がそこに近づけるようになった、それと同じく私たちは今主を信じ、直接主に近づき神の家族とされたのです。主に感謝しましょう。